

どこで夢を見る?

第三話 心は宇宙の中  
抱きしめて宇宙  
テーブル連続小説



e  
K  
ス  
ペ  
ー  
ス  
力  
ス  
タ  
ム  
好  
評  
展  
示  
中  
。

少女が笑った。僕はその笑顔を目に見られるんだ」  
購入するのに現金がすぐ用意できない場合は、SMPというお得なクレジットもある。そうだ、僕は忘れていた。人間の心はいつだって無限大の夢が見られるんだ。心さえ自由なら宇宙にだって行けるんだ。  
「一緒に行こうよ。私、待ってるからね」

少女が笑った。僕はその笑顔を目に見られるんだ」  
購入するのに現金がすぐ用意できない場合は、SMPというお得なクレジットもある。そうだ、僕は忘れていた。人間の心はいつだって無限大の夢が見られるんだ。心さえ自由なら宇宙にだって行けるんだ。  
「一緒に行こうよ。私、待ってるからね」

指してひた走り、国道五号線沿いの北海道三菱小樽店へ向かった。そこできっと、僕の夢をかなえてくれるeKスペースカスタムという宇宙に出会えると信じて……。

大人になればどんな夢だつて叶うと思っていた。子供時代の僕はなんて幸せな人間だったのだろう。少年時代の僕よ、現実は辛いことばかりだぞ。無闇な夢なんて見ないでくれ。社会という大きな機械の中で働く歯車の僕は、自由とはかけ離れた『責任』という名の檻の中で人生を終えようとしている。いつだつたろう、夢を見る事にもお金がかかると知ったのは。いつからだろう、夜ごと見る夢にさえ怯えるようになったのは。

「ここにあるよ」

不意を突かれて足が止まる。振り返る僕の目に映ったのは、碧い少女だった。

「ここなら、色んな夢が見られるよ」  
小柄でありながら広い室内空間は用途を選ばない。確かに、そういう意味では夢はいっぱいだ。色んな楽しいことができるんだよ」

もちろん駆動方式は4WD、変幻自在のシートアレンジが可能だから日常の買い物以外に、自転車やテントを積んでレジャーだって可能だ。

「そうだ……、どんな時だって夢は見られるんだ」

